

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2023年度学校自己評価」を報告するものです。

①自己評価は次の14 領域（部署）で実施しました。

- ・各学年団（中学1・2・3年DS、中学GS・高校GL・高校1年AAコース・高1年LS・高校2・3年の6学年8領域）
- ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会 7領域）

②評価法

- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定しました。
- ・年度末に、実践内容について評価しました。
- ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階としました。

③改善・向上策・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載しました。

学年の部

2023年度

中IDS 学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学一年DS	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「正しく問い、深く考える。～自分のこと、他者とのこと～」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 目標を印刷したものを廊下や各教室に掲示して常に目に触れるようにした。 2. 学年集会・学年だより・総合学習・各クラスでのHR等で取り上げた。	B	・中学1年生としてはやや難しい目標ではあったかもしれないが、「考えること」の重要さに気づく機会が多く、今後も粘り強く、時間をかけて浸透させていく。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 携帯の使用、身だしなみ、貴重品の回収などについて指導方法を学年団で確認した。 2. 禁止事項の注意時には必ず「理由」を伝え納得させるようにした。 3. 生徒情報は、学年団が常に共有できるように朝の職員朝礼で伝達し、連携をはかった。	B	・風紀面の注意は今後も継続して行う必要がある。 ・学年団の情報共有のおかげで、各生徒の現状を比較的正確に把握でき、問題にも早く対応できたため、今後も同様に取り組んでいく。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. まずは起床・就寝・勉強開始時間の3点の固定を呼びかけ、朝の手帳の時間に記録させた。 2. 中学最初の定期考査前には、各教科の担当から「勉強のやり方」を講義する時間を設けた。 3. 数学の成績中上位層の力を伸ばす目的で毎週水曜日の放課後に数学特進講座を開講した。 4. 自学自習を身につけられるよう、毎週土曜の放課後に勉強会を開催し、当番制で教員が支援にあたった。 5. 各学期後に成績不振の生徒に対して補習を実施し、一方で興味をもって取組めるような発展講習も実施した。 6. 2学期以降、全員受験の実力テストを実施し、数日後に実力問題解説会を行った。 7. 百人一首大会や聖歌発表会、レシテーションコンテストをおこない、クラスや学年全体の学習意欲の向上をはかった。 8. 学校における様々な学習活動においてICTデバイスを活用し、学習能率の向上を試みた。	B	・手帳をはじめ、学習に対する意欲の差が大きく、全体的な指導、意欲の底上げについて対策が必要である。 ・勉強会や発展講習には中上位層の一定数の参加者がみられたことは良かった。今後も興味感心から意欲向上につながるような展開を企画したい。 ・補習は英数国の3教科を中心に実施したが、思うような効果が得られず、さらなる工夫が必要である。 ・iPadを授業時に使用した場合には、学習活動以外のことに興味が移ってしまうなど、まだ1年生の段階では、メリットよりもデメリットの方が大きいと感じられた。ICTデバイスの使用については十分な注意が必要である。

	総合学習	1. マナー 2. 心のマナー	1. マナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. コミュニケーション上の問題が多い時期であることを念頭に、他者を理解しつつ、上手に自己主張を行えるようにする。	1. クラスでは誰もが安心して過ごせるよう、「クラスの安心ルール」考え、学習や課外活動に自分らしく取り組める環境作りを目指した。 2. 友人との上手なコミュニケーションが実践できるよう、スクールカウンセラーによる講座を1, 2学期に実施し、人間関係の緊張を緩和する方法について学んだ。 3. 心のマナーをより深めて、いじめや人権の問題にまで広げ、講演会や映画鑑賞を行った。	A	・安心ルールは、各クラスにおいて注意・指導する時などに活用できた。そのためにも、漠然としたルールよりも、より具体的なルールを考えさせるようにしたい。 ・スクールカウンセラーによる講座は具体的で、実際に役立つ内容であった。 ・いじめや人権問題の話はまだ難しく明瞭な答えはないが、それぞれが真剣に考える時間をもてたことは良かった。それらのことが心のどこかに残っていつか役に立つことを期待したい。
	行事	1. 夏のキャンプ 2. 秋の校外学習 3. 芸術鑑賞	1. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 2. 地域の産業、歴史に触れる。 3. 臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。	1. 集団での過ごし方を意識し、他者との協力の在り方を体験とともに学ぶようにプログラムを実施した。 2. 秋の校外学習では丹波篠山を訪れ、立杭焼き体験と史跡訪問を行った。また3学期には「灘浜サイエンススクエア」で工場見学を実施した。 3. 1学期に「ピッコロわくわくステージ」、3学期には「わくわくオーケストラ教室」に参加した。	A	・夏のキャンプは、キャンプリーダーとともに積極的にプログラムに参加し、集団生活を通して貴重な体験を積むことができた。 ・校外学習も意欲的に取り組み、五感を使って多くの知見を得ることができたようだった。 ・芸術鑑賞は、迫力のある実際の演技・演奏に触れることで良い刺激を受けていた。今後も機会をみつけて参加したい。

中２ＤＳ学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学 二年 Ｄ Ｓ	学年の目標	学年の目標の理解と実践	1. 学年目標を「ともに歩む」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 学年集会・学年だより・各クラスでのＨＲ等で取り上げる。	B	・しっかりと取り組めた場面もあったが、常に意識をするところまではいかなかった。継続して粘り強く声掛けをしていく。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	1. 授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限、学習計画等に手帳を活用し、時間管理・自己管理に繋げる。 2. 成績下位層の生徒に対してサポートを行い、底上げを図る。 3. 応用・実践力を試す機会を設ける。 4. 成績上位層の生徒に対してサポートをおこない、学習意欲と能力を伸ばす。	1. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。 2. 朝礼前の５分間を「手帳の時間」として、1日の計画を考えさせる時間とする。 3. 各考査後に成績不振の生徒に対して補習を実施する。 4. 数学の成績中上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講する。 5. 全員受験の実力テストと、希望者による実力テストを学期ごとに実施する。	B	・手帳の取り組みは個人によって差があった。共通して取り組む部分をきちんと定着させることができるようにしたい。 ・引き続き効果的な補習をおこなっていく。 ・応用力をつけることを意識した授業をおこなう。希望者の実力受験者数を伸ばす工夫をする。 ・次年度は開講し、中上位層の学習意欲と能力の向上を図る。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 頭髪等の風紀面について、教員間で意思統一して指導をおこなう。 2. 携帯やタブレットの使い方について、教員間で意思統一して指導をおこなう。 3. 生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談等の生徒対応に活かす。	1. 学年団全体で生徒を見守り、必要に応じて保護者とも電話・メール・面談などによって連携をとる。 2. 本校の規定にふまえて、学年集会・ＤＳだより・ＨＲ等の機会を使って周知し、指導した。 3. 1学期中間考査最終日に実施した。	B	・風紀面や生活のルールについて、朝終礼や集会で話をした。全員が守れるように徹底させていきたい。 ・ルールを意識して使用できる生徒が多くなったが、個人差もあるので、粘り強く指導していく。 ・次年度も同時期に実施して、生徒対応に生かす。

	総合学習	「いのち」についての学習	1. 命を授かるということをテーマに、その偶然性や大切さを理解させ、「生」について考える。 2. 看護の現場に働く人、死を看取る側の人、病を抱えて生きる人など、「生」や「死」に関わる様々な立場の人に触れることで、「死」について考えるとともに、「生き方」について考えさせる。	1. 様々な夫婦に関わるドキュメンタリー映像の視聴を通して、命を授かることが簡単なことではないこと、生まれてくる命が万全とは限らないことなどを自覚させるとともに、命を授かることには大きな責任が伴うことを理解させた。 2. 救急病棟の看護師の話を聴いたり、看取りにかかわる本を読み聞かせたり、病を抱えて生きた人のドキュメンタリー映像を視聴したりすることで、生きることの有難さを実感させた。また、いつかは死ぬということも実感させ、自分という存在が限られた時間の中の大切な命であるということを感じかせ、どのように生きていくべきかを考えさせた。	A	・今回感じたことや考えたことを大切に、将来命を授かる際に生かしてほしい。 ・死から目を背けるのではなく、死にも向き合うことで、生きることの大切さをより実感してほしい。 命や時間の大切さを実感することによって、今やるべきことをしっかりとやり、考えをもって生きていってほしい。
	行事	1. 春の遠足 2. British Hill 国内英語研修 3. 奉仕活動の日	1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2. 授業で学んだ知識を活かし、英語力を高め、英国文化を体感する。 3. 学年全体で取り組み、小児がん支援になる活動をおこなう。	1. ロックガーデンから風吹岩へのハイキングコースを散策した。 2. 福島県にある British Hill を訪れ、英語研修をおこなった。 3. ホットレモネードを作り、小児がん支援のための募金活動に取り組んだ。	A	・次年度も六甲山系の別コースで自然の大切さを学ぶ。 ・楽しみながら英語力を高めるプログラムであった。最終日の行程にゆとりを持たせるようにする。 ・2学期の終わりから作業に取り組み、校内や商店街で募金活動を行った。社会貢献につなげてほしい。
	その他	I C T の活用	1. 授業や総合学習、H R 等で活用していく。こうした学校活動を通して I C T リテラシーを向上させる。	1. 学年、クラスからの連絡は Classi、教科からの連絡は Teams を活用していた。一部の授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり、課題をさせたりした。この利用を介して必要なスキルを身につけた。	A	・連絡先を分けたことで、確認するアプリの問題を解消した。今後も様々な活用を推進していく。 ・I C T リテラシーに関しては、個人差があるので、全体的な向上を図る。さらに資料作成やプレゼンテーション等のスキルも向上させていく。

中３ＤＳ学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学 三年 ＤＳ	ストリームの目標	学年の目標の理解と実践3	学年目標を「彩」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	学年集会・ＤＳだより・各組のH R等の場で取り上げた。	B	常に意識をするとところまではいかなかった。継続して粘り強く声掛けをし、学年通信等でも取り上げる。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	1. 授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限のメモ、学習計画等に手帳を活用する習慣を身につけさせ、時間管理・自己管理に繋げる。 2. 成績下位層の生徒に対してサポートをおこない、底上げを図る。 3. 応用・実践力を試す機会を設け、入試等の問題を解く力をつけさせる。 4. 成績上位層の生徒に対してサポートをおこない、学習意欲と能力をさらに伸ばす。	1. 中学2年次までの2年間は共通の手帳を持たせたが、今年度は、その経験を活かして各自で手帳を購入して活用するように呼びかけた。 2. 定期考査の成績不振の生徒に対して、考査直後と次回考査前で実施時期を使い分けて補習を実施した。 3. 全員受験及び希望者による実力考査を学期ごとに実施し、解答配布後には解き直しをさせた。また、基礎学力判定試験を見据え、夏休みでは過去問題を宿題とし、2学期末にはプレテストとして過去問題を学校で受験させた。 4. 数学の成績上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講した。	B	1. 取り組みは個人によって差がある。個人に任せず全体で書かせる時間を増やし、手帳の利用を定着させ、時間管理・自己管理に繋げていきたい。 2. 引き続き効果的な補習を行っていく。 3. 実力考査や基礎学力判定試験を実施する以外にも、応用力をつけることを意識した授業をおこなう。 4. 次年度も引き続き開講し、上位層の学習意欲と能力の向上を図る。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 服装・頭髪等の風紀面について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。	1. 本校の規定や指導ガイドラインに照らし合わせて適宜指導した。	A	1. 風紀面についての乱れはほとんどなかったが、今後も必要な指導を継続していく。

		2. 携帯やタブレットの使い方について、教員間で意思統一して指導をおこなう。 3. 生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談等の生徒対応に活かす。	2. 本校の規定にふまえて、学年集会・DS だより・HR 等の機会を使って周知し、指導した。 3. Ⅰ学期中間考査最終日に実施した。		2. ルールを意識しながら使用できる生徒が多くなったと思うが、引き続きしっかりと指導していく。 3. 次年度も同時期に実施して、生徒対応に生かす。
総合学習	「進路」「平和」についての学習	1. 進路（進路） 中学と高校の違いを学び、自分の適性を知り、身近な人の職業を知る。 2. 進路（小論文） 自分自身を見つめなおし、「人に負けないあなたの強み」を小論文にする。 3. 平和学習 国内外の紛争や戦争について考え、平和への提言をまとめ、発表する。	1. 高校生活や学習において最低限求められることや、進路実現のために必要なことについて調べた。卒業生の講演を通して将来の進路について考えさせた。 2. 業者の基礎小論文補助教材を利用して文章を書く基礎を身につける取り組みを進め、3 学期には小論文試験を受けた。 3. シリアの内戦や広島原爆投下についての講演を聴いたり、戦争に関わる映画を鑑賞したりして、どのようにすれば平和な世界になるのかを考えさせ、「平和への提言」という形で発表させた。 夏休みには沖縄修学旅行を見据えて調べ学習に取り組ませた。	A	1. 調べたことや講演を通して、どのようなことを意識して高校生活を送り、将来の進路に繋げていくか真剣に考えていってほしい。 2. 一から書き上げていく力はまだ身についていないため、業者のテキストを使用し、内容をステップアップさせていく。 3. 見たり聞いたり調べたりすることで留まることなく、「平和への提言」で考えた改善策・解決策を、行動に移すことを促していく。
行事	1. 春の遠足 2. 修学旅行（沖縄） 3. 奉仕活動の日	1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2. 沖縄戦を通して、平和学習を行う。また、沖縄の歴史・文化・自然に触れる。 3. 学年全体で取り組み、社会のためになる活動をおこなう。	1. 谷上駅から森林植物園へのハイキングコースを散策した。 2. 祈念公園、資料館、ガマなどを訪れ、沖縄戦を肌で感じ、平和について考えさせた。また、水族館を訪れたり、マリンスポーツをおこなったほか、サンゴ再生プログラムを通して、沖縄について知り、学び、体験させた。 3. リサイクル品を回収し、回収スポットに届ける活動に取り組んだ。回収した保冷剤を利用して、消臭剤にアップサイクルする活動をおこなった。	A	1. 次年度も六甲山系の別コースで自然のすばらしさに触れる。 2. 現地を訪れて、沖縄戦や基地問題など多くのことを感じ取ることができた。英語体験プログラムは現地スタッフとの打ち合わせをもう少し綿密にしておくべきだったと感じた。 3. 各家庭・各学年にリサイクル品の回収をお願いするための準備をもう少し早くからおこなうべきであった。分別し回収スポットに届ける活動は段取りよくできた。消臭剤へのアップサイクル作業はそれぞれが工夫してした。
その他	ICT の活用	1. 授業や総合学習、HR 等で活用していく。こうした学校活動を通して ICT リテラシーを向上させる。	1. 教科やクラスの連絡ツールとして Classi を活用した。一部の授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり 課題をさせたりしているこれらの利用を介して必要なスキルを身につけた。	B	1. 授業での活用の余地はまだあるので、今後様々な教科で活用を推進していきたい。 ICT リテラシーは向上しているが、個人差がある。今後は資料作成やプレゼンテーション等のスキルも向上させていきたい。

対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
目標	目標の理解と実践	「Know the World: Embrace the Unknown. 世界の有り様を知り、未知との遭遇を楽しみましょう」「 Understand the world: Build Bridges 世界の有り様を理解し、知識を連結・統合する」	何かある度に目標を引用して今の自分たちの位置づけを説明した。また、中学1年生は知識をインプットする時期で学ぶことが多いが、それが〇〇につながるや〇〇と関係している、また〇〇で面白よね?など、好奇心を掻き立てるような声掛けを行い続けた。	A	色んなことができるようになったことで生徒たちは自信をつけたように見える。今後も知的好奇心を高める工夫を行いながら、その背中を常に押すサポートを続けたい。
生活指導	指導方針の確認 指導体制の推進	校則については年度初めに教員間で確認、また迷いが出ればその都度、確認する。安心できる学習環境が一番、何かが教室で起こっているようならすぐに教員内で報告相談連絡。	教員間で常に生徒状況を報告し合い、校則については指導の統一ができるように、また不安をかかえている生徒がいるなら、その指導について話し合い、生徒や保護者が安心するよう取り組んだ。	A	教員間で話し合い、指導について共通理解ができた。(正解かどうかは分からなくとも)、生徒にとって常に最善の方法を教員間で常に話し合い、実践できた。
学習指導	普段の指導		終礼で宿題の確認を行ったり、大きなテストの後には、振り返りをつけたり等、何のために、何をすべきか、また反省点は何かが分かる振り返りの機会を多くとった。	A	中学の段階では当たり前のようにこの振り返りをできるようになるまで、生徒に伝えていくことが必要。今後も声をかけ続け、常に何のために、何をすべきかを意識させ続けたい。
	音読	朝の音読を3種類(知識の音読、表現の音読、定着の音読)に分け、語彙力や表現力を伸ばし、ポートフォリオで自己を振り返る。また普段からの声や担任との面談を通して、基礎学力の定着及び、学習意欲を向上させる。	ニュースで語彙を増やしたり、演劇練習で表現力を伸ばしたり、暗記するために音読したりで、知識を増やし、表現力を養う練習を行った。	A	毎朝、帯活動のように声を出す発声法を自分たちで考えて、継続して行った成果が出た。
	ポートフォリオ		チームスで教員と対象生徒のみが閲覧可能なエクセルファイルを作成し、そこに定期考査、実力考査、評定をまとめた表や約20項目の一问一答型の振り返りポートフォリオを作成した。情報を集約しすぐに振り返られるようにした。	A	チームスの課題に張り付ける形で、提出を行った。以前よりも見やすくなった。
	教科横断	教科横断型で教育課程を考え、より深い学びを得て、なおかつ定着して欲しいスキルを効率よく定着させる。	各学期に3つずつ教科を横断するテーマやスキルを設定し、取り組んだ。	A	連携して取り組む効果は絶大。年々、より良い形に仕上がっている。
GL探究 (総合)	プレゼンテーション	あるテーマについて学校で1番、教員も敵わない知識を持つことが目標。かつ、パワーポイント(PPT)を用いてプレゼンテーションを行う。	①学期プレゼンテーマ 前半：SDGsに関わるプレゼン 後半： 中学GS⇒社会をよりよくする活動案 高校GL⇒ソーシャルアントレプレナーシップの知識をベースにビジネスピッチのプレゼン ②学期プレゼンテーマ 「日常のなぜ～さらにその先へ～」 ③学期プレゼンテーマ 「好きなこと全カアピール」J1は日本語、J2は英語。中3は「3学年の振り返り」。高1は「マイテーマ×〇〇(学問領域)」	A	PPTを用いたプレゼンテーションの型を習得することができた。回数を重ねるごとに生徒たちが明らかに慣れしている様子が見えた。3学期にはPPTだけでなく、英語動画まで編集して作成することができた。内容面でも目標の通り、教員が知らないような知識まで調べあげて発表した。教員の期待以上の成果を出した。 高校生は、今後の卒業論文作成にむけて、自分のテーマを決めた。今後は、そのテーマをベースにリベラルアーツ的に多角的にそのテーマを調査する。3学期のプレゼンは、その1例となり、初の取り組みであった。生成AIを使うことで、時間を短縮でき、上手く情報をまとめられた。
	ディスカッション &ディベート	生徒同士で話し合い、知識を深める。その後、小論文を作成し、生徒同士で相互評価や教員からフィードバックを受け、さらに良いものへ仕上げる。	各学年のテーマ 中学1年GS：自動運転の賛否、代替肉の賛否、既読スルー、割り箸の賛否、防災バッグ30、English Central 英語動画作成 中学2年GS：新しい教科を作るなら何?、出生率の問題と改善案、NIPTの賛否、The Coveがアカデミー受賞の賛否、Youtuberの分析、English Central 英語動画作成 中学3年：カップヌードルの賛否、ジェンダー、合意形成、新しい国(税や福祉)、3年間の振り返り 高校1年：Well-being(Love or Money)、ソーシャルアントレプレナー、カナダのなぞ、マイテーマの設定	A	これまでに考えたことがあるものや身近なものに関しては深い部分まで考察できるが、多角的な分析が必要なテーマに関しては、まだ知識や足らず、事前学習の設定を念入りに行う必要がある。それと同時に、教員側の問いの設定を見直す必要を感じている。難しいテーマの場合は、より身近な言葉や問いにしてから取り組むよう再度、調整する。 22年度からの変更点 中1：レジ袋有料化の賛否⇒代替肉の賛否 中3：エシカル消費⇒カップヌードルの賛否 変更したことで、より身近なテーマで学ぶことができた。次年度は、中3の新しい国の部分を高福祉高負担 or 低福祉低負担というテーマで、より身近な内容へと落とし込みたい。
	行事企画運営	①奉仕活動の日、②校外学習(教員主導)、③校外学習(生徒主導) 学内行事ではその意図を見極め、適切なものを考え出し、実行する。教員主導のものは、学んで欲しいもの、生徒主導は、	①学期 ・世界探訪オンライン(ザンビア) ・校外学習 J1：JICA 関西と人と未来防災センター J2：大阪民族博物館、太陽の塔 J3：南禅寺、琵琶湖疎水記念館	A	①学期の世界探訪&校外学習から、2学期の校外学習案を考え、奉仕活動の日実践という流れをとった。

		自分たちで計画実行し、学びをデザインする。	HI：農業体験 夏休み ・インターンシップ HIG:ミカエル国際学校アシスタント&福祉施設でのインターンシップ ②学期 ・校外学習 J 1：ニジゲンの森 J 2：大阪赤十字血液センター J 3：明治なるほどファクトリー&読売テレビ ・高大連携授業（神戸大） J3 と HI 神戸大の先生による金融教育 最終日は神戸大でのプレゼン ・その他 J3：美野丘小学校への出前授業 ③学期： ・世界合同プレゼン 全員で視聴&各学年グループが発表 ・その他 J 3：キンダーキッズ出前授業		最終的に決まったテーマは、中1がジェンダー、中2が献血、中3が英語での教育連携、高1が金融教育の普及 それぞれの学年が、1学期にその内容をきめて、校外学習を考え実施を行い、世界合同プレゼンで発表を報告できた。 実際に賞をいただくこともでき、嬉しく思う。 ただ、最後の3学期の活動のメが、社会をよりよくする活動というより、世界合同プレゼンにおける活動的になってしまったので、そこは工夫したい。
	時事ニュース	時事ニュースを習慣的に読み、世界の実状を知る。また、ニュースで使われる語彙表現を学ぶ。	気になるニュースを毎週、自分のことばでまとめ、感想とキーワードとなる言葉や用語を書く。また、1人ずつ発表も行い、生徒に問いを投げかけ、全員の考えを知る。	A	発表の場を設定し、みんなで同じ問題について考えるのが非常に良かった。また問づくりの良い、練習になった。
宿 泊 研 修		J 2：アートマインドを知る。 J 3：途上国の現状を知る。 HI：先進国の現状を知る。	J 2：香川県直島アートマインド研修 J 3：フィリピン研修 H I：カナダ研修	A	どの研修においても生徒は大きく成長したように感じている。直島ではアートのことを知り、フィリピンでは、その国の現状を知り、カナダでも現状を学んだ。多くのことを学んでいるが、その中でも日本のことを外からみるという視点を獲得できた部分は大きい。世界において、今の日本がどういう状況であるのかは、将来を考える上でも非常に重要である。
ミカエル国際学校連携	GSM 土曜日講座 ミカエル連携授業	ミカエル国際学校と連携し、国際的な環境で授業を受け、英語で何かを学ぶイマージョン教育を行う。教科横断のカリキュラム内容を松蔭側と相談の上、決定して効果的な授業を行う。	満足度調査などで生徒の様子を確認しながら、松蔭側の要望や現在の生徒の様子(英語レベル、英語の取りくみ、ICTスキルなど)をその都度、報告した。	B	昨年度よりも授業アンケートによる満足度が高くなったが、それでもまだ改善の必要がある。今年度は、生徒の英語レベルによってクラスを分ける取り組みを行い、全体の流れが5回で1つのテーマが終わるという形で実施した。 まだまだ改善の余地がある。
A I C 連携	TOEFL 対策講座 や課外講座	TOEFL ITP や iBT の対策を行いつつ、様々な体験活動を行い、キャリアについて考える。	学校の様子などを報告しつつ、連携してより教育プログラムを考えた。 学外活動（AIC を通しての実施） ・農業体験 ・福祉施設のインターンシップ ・メタバース	A	英語のみならず、様々な活動を体験することにより、自分のキャリアを考えるよい機会となった。ただ、授業時間数の設計やプログラムには、まだ検討の余地がある。今後、徐々につめていきたい。
実社会	実社会とのつながり	企業と連携したり、外部コンテストに応募したりで、学びを松蔭という枠だけにとどめず、外の社会とつながる取り組みを行う。	「防災バッグ30」の開発先である株式会社山善より生徒小論文へコメントを頂きフィードバック。English Central Award 2022 応募。神戸大との連携授業	A	実際の企業と連携して学びを深めたり、学外コンテストに応募したりで今後も実社会とのつながりを直に意識できる取り組みを多く行いたい。

高校Ⅰ年 AA コース 学校自己評価（ A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった ）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校Ⅰ年 AA コース	学年の目標	学年の目標の理解と実践	・千日の鍛錬一瞬の業	1. 目標を教室と廊下に掲示。学年集会、学年だより等の配布物で触れて意識させる。	B	高校生活は限られた時間しかないことを意識させ、何事も積極的に取り組むよう促す。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	・コース間で教員同士のコミュニケーションを多くし、生徒の様子を共有し適切な声掛けをしていく。	1. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとる 2. 生徒や保護者についての情報交換をこまめに行う。	A	・より細やかに対応できるよう面談等で得た情報を共有する場を意識的に増やす。
	学習指導	高校Ⅰ年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	・短い時間であっても毎日課外学習を継続する。 ・放課後や休み時間を利用して、課題や予習復習に取り組む。	1. 放課後に各科目の学習に取り組む。 2. 全員受験の実力考査を年に3回、スタディーサポートを年2回実施する。	B	・それぞれの練習やレッスンのない日は放課後教室に残り学習に取り組んでいた。少しでも学習の意欲を高めたい。
	言語探究	進路と社会問題について学ぶ	・さまざまな環境問題に目を向け、改善に取り組む姿勢を高める。 ・コースの特色を理解し、専門的な知識や分野について理解を深める。 ・小論文の基本知識を学ぶ。	1. Blue Earth Project の取り組みについてレクチャーを受けた後、海に関する啓発プロジェクト「うみぼす甲子園」に参加する。 2. トレーニングやスポーツ理論について、一人ひとり発表を行う。改善できるよう同じ形式で2度実施する。 3. 小論文の基本的な書き方や文章の構成を学び、リライトをさせる。	A	・多くの環境問題に目を向けられるよう、機会を増やしていく。 ・発表については上手にパワーポイントを作成できているが、話し方や伝え方に改善点が多く、場数を増やしていく必要がある。 ・小論文は文章の構成はもちろん、まだまだ誤字や脱字が多いので基本的な学習機会を増やす。
	学年行事	遠足・校外学習	・登山を通じて神戸の自然に触れる ・奈良での一日の過ごし方のプランを作り、実践する。	1. 新神戸ー修法ヶ原ー諏訪神社のルートでハイキング。 2. 奈良自由散策。	A	・どちらの行事も好天に恵まれ、のびのびと過ごすことができた。
	AA 特別講座	アスリート、アーティストに関わる専門知識を学ぶ	・さまざまな分野の講義、実技を受け、幅広い知識を得る。	3. 資料やスライドを見て講義の内容を理解する。実技が必要なものに関しては、身を持って感覚を体験する。	A	・どの講義も積極的に取り組み、実践することが必要である。

高ⅠLSコース （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
LS	コース目標	学年の目標の理解と実践	学年目標： 「生きぬく力、思いやる心」 副目標： 「自立・自律」	学年集会・LS通信・HR等で機会があるごとに触れるとともに、様々な活動において可能な限り目標を意識させる。	A	在学中はもとより卒業後も、人としての基本的な姿勢として身につくよう、場面場面で継続して粘り強く声掛けしていく。
	学習指導	高校Ⅰ年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	1. 授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限のメモ、学習計画等に手帳を活用する習慣を身につけさせ、時間管理・自己管理に繋げる。 2. 応用・実践力を試す機会を設け、入試等の問題を解く力をつけさせる。 3. 進路に向けて放課後や長期休暇に講習を設定する。 4. 情報収集、要約、発信力を鍛え、社会で必要となる能力を身につけさせる。	1. 朝礼前の5分間を「手帳の時間」として設定したほか、授業やHRでの連絡の際に手帳に書かせるなど、手帳の活用を習慣づけるようにした。 2. 全員受験の実力考査及び校内実力判定試験を年3回ずつ、スタディーサポートを年2回実施し、解答配布後には解き直しをさせた。特進クラスの生徒については、土曜4限に英数国の講習を行った。 3. 希望者を対象に、平日放課後に数学特進講座を開講した。また、月曜の放課後に学びの興味を育てるプログラムを企画、実施した。さらに長期休暇に進学補習を実施した。 4. 世の中の出来事について調べ、要点をまとめ、意見・感想を書く「MY NEWS」を提出させた。	A	1. 取り組みは個人によって差がある。個人に任せず全体で書かせる時間を増やし、手帳の利用を定着させ、時間管理・自己管理に繋げていきたい。 2. 実力考査や校内実力判定試験を実施する以外にも、応用力をつけることを意識した授業を行っていく。 3. 次年度も引き続き開講し、上位層の学習意欲と能力の向上を図る。 4. 提出させるだけでなく、添削など内容に関するフォローを行うことで、書く力もつけさせたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 服装・頭髪等の風紀面について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。 2. 携帯電話やタブレットの使い方について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。	1. 本校の規定に照らし合わせて適宜指導した。 2. 本校の規定に加え、学年でもルールを定め、学年集会・DS通信・HR等の機会があるごとに周知し、指導した。	B	1. 風紀面についての乱れはほとんどなかったが、今後も必要な指導を継続していく。 2. ルールを意識しながら使用できる生徒が多くなったと思うが、引き続き粘り強く指導していく。

			3.生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談やその後の生徒対応に活かす。	3.1学期と2学期に実施し、面談等に活用した。		3.次年度は学期に1回実施し、生徒対応に活かす。
	言語探究	「進路」「社会問題」について学ぶ	1.進路（進路） 進路シミュレーション・進路講話などを通して、具体的な進路選択を探る。 2.進路（小論文） 業者のテキストを利用しながら、課題についての小論文を書けるようにする。 3.社会問題 解決策が必要な社会問題について考えさせる。 4.Blue Earth Project 海に関わる環境問題について考え、行動に移させる。	1. 高校生活や学習において最低限求められることや、進路実現のために必要なことについて調べたほか、卒業生の講演を通して将来の進路について考えさせた。 2. 「序論」「本論」「結論」の構成を意識させながら、課題について自分の考えを根拠を持ってまとめさせた。最終的には、小論文のテストという形で書かせたものを業者に添削してもらった。 3. どのような社会問題が課題として存在し、どのような解決策があるかを考えさせ、プレゼン資料にまとめさせた。また、優秀作は学年全体の前で発表させた。 4. Blue Earth Project の取り組みについてレクチャーを受けた後、海に関する啓発プロジェクト「うみぼす甲子園」に参加した。また、奉仕活動の一環として須磨海岸のビーチクリーンを行った。	B	1.調べたことや講演を通して、どのようなことを意識して高校生活を送り、将来の進路に繋げていくか真剣に考えていってほしい。 2.説得力のある文章が書けるように、業者のテキストを使用し、内容をステップアップさせていく。 3.見たり聞いたり調べたりすることで留まることなく、改善策・解決策を考えさせ、行動に移すことを促していく。 4.高2以降のBlue Earth Projectの活動に積極的に参加してほしい。
	行事	1.春の遠足 2.秋の校外学習（奈良）	1.自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2.世界遺産（東大寺・興福寺・春日大社・元興寺）に触れる。班別に事前に計画し、自主研修する。	1.新神戸ー修法ヶ原（再度公園）ー諏訪神社のルートで実施した。 2.主体的に行動させるため、クラスを越えて班を作らせ、世界遺産のいずれかを巡るような行動計画書を事前に提出させて実施した。現地集合・現地解散とした。	A	1.比較的長い行程を経験することができてよかった。 2.高2の修学旅行に向けて、主体的に計画し、指定した時間に集合・解散する経験ができて良かった。

高校2年
 学校自己評価（
 A よくできた
 B できた
 C あまりできなかった
 Dできなかった
 ）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校 2 年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	When you can dream it, you can do it.	1. 目標を教室と廊下に掲示。学年集会、学年だより等の配布物で触れて意識させる。	B	・進路に向かっていく中の基本的な姿勢として根付くよう、機会を見て伝えていく。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	・年度の始めの会議で教員間で共通理解を持つ。 ・会議の場ではもちろん、普段から生徒の様子を共有し適切な声掛けをしていく。	1. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとる 2. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行う。	A	・進路の面も含めて、よりスムーズに情報共有できる仕掛けが必要
	学習指導	高校2年生としての基礎学力の定着と進路に向けた活動を通した学習意欲の向上	・高校2年で必要な学力を定着させ、さらなる学習意欲の継続・向上を促す。 ・自主的な学習ができるように促していく。	1. 朝礼前の5分間を使って、各科目の学習に取り組む。 2.全員受験の実力考査を年に3回、スタディーサポートを年2回実施する。 3. 英語検定・漢字検定に取り組む。 4. 学期中および長期休暇中、必要に応じて進学補習を実施する。	B	・朝学は生活指導の面では良いが、学習時間としての意識を持たせる工夫が必要。 ・放課後講習は各学期で実施でき、受講した生徒も前向きに取り組んだ。より多くの生徒が参加するよう呼び掛ける。
	言語探究	1.自己分析 2.ストレスコーピング 3.修学旅行（事前・事後学習） 4.奉仕活動 5 進路 6.BEP	・自己分析から自己開示、他者理解の方法について触れる。 ・学校生活におけるストレスの対処法を学ぶ。 ・修学旅行で訪れる東北の地について学ぶ。 ・社会問題について学び、自分たちができることを考え実行する。 ・志望理由書の作成に向け、文章の書き方の基礎を学ぶ。 ・進路選択について理解を深める。 ・環境問題について学び、それらを他者に知ってもらう取り組みを行う。	1. 外部講師を招いて、自己開示・自己表現のワークショップを受講。 2. スクールカウンセラーの先生に講義をもらい、レジリエンス、セルフコンパッション、強みなどの心理学的アプローチについて学ぶ。 3. 東北で訪問する地について調べ学習をし、修学旅行後 Canva をつかって振り返りを作成する。 4. グループごとに取り組みを決め、校内外で活動する。募金活動や保育園、子供食堂、教会などでの奉仕活動に取り組む。 5. ステップ基礎小論文に取り組み、小論文テストを実施。返却された原稿を振り返る。 6. 校外から講師を招き、進路選択について講演を実施。進路についての学年集会を持つ。 7. 校外のイベントにブース出展、ステージ参加する。	A	・多様な取り組みを実施することで、多くの生徒に刺激を与えられた。 ・経験させられたことをより実のあるものにするための、効果的な振り返りの方法が必要。
	学年行事	1.春の遠足 2.修学旅行	1. 須磨浦山上遊園で自然に親しみ、友人関係を深める。 2. 東北では当地の自然や震災について学ぶ。東京では国際的アミューズメントパークのホスピタリティについて学ぶ。	1. JR 須磨駅に集合し、須磨山上遊園まで歩き、昼食後、下山し解散した。 2. 東北では平泉・小岩井・龍泉洞を訪問。田老・気仙沼では震災学習。当地の語り部や高校生ボランティアからお話を聴く。東京ではディズニーランドを訪問。	A	・本物に触れることで学ぶことは意義深いと感じる。特に東北での震災学習は何らかの形で次年度以降も残していきたい。

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校 3 年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	・自他を大切に ・未来を、betterな選択で、 私たちがつくる	・目標は教室と廊下に掲示。学年集会や学年だよりで、できるだけ話題としてあげた。	B	・掲げられた目標が、各自のものとしてとらえられているかをふり返る機会が持てるとよい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話、メール、面談など必要な連携をとる。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. 学期に一度以上の生徒との個人面談の時間をとる。	1. 学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。 2. 1学期末より多数の生徒が具体的な受験準備に取り組み出すと同時に不安感も増大し始めた。生徒本人はもちろん、保護者とのやり取りを密にするなど、細やかな生徒指導を心がけた。 3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換を頻繁に行った。また進路に関する綿密な会議を多数回開催した。 4. 指導・面談等役割分担を徹底し、可能な限り細やかに対応できるよう心がけた。	B	・進路にからみ、心身の調子を崩す生徒がかなりみられた。また大半の生徒が進路を決定した2学期後半には受験継続生徒の心的負担が一層増えた。これらの生徒へ個々へのフォローはもちろんだが、全体としてももう少し対策を検討する必要性が感じられた。
	学 習 指 導・進路指導	高校3年生としての学力の定着と進路に向けた活動を通した学習意欲向上の推進	1. 実力テスト等の結果を読み取り、具体的に進路を考え、決定していく。 2. 進路実現に向けた学習意欲の向上と必要な学力の定着を促進する。 3. 進路決定後も進路先での「その後」に備えた学習・学びを実践する。	1. 年3回の実力テスト及び希望者模試を実施。実力テストの結果を適正に理解し、面談等を通じ進路を決定していった。 2. 進路説明会を4月・9月に実施し、各自のスケジュール管理を促した。 3. 自習室の利用を促進するため、「延長利用制度」などを試み、自主的な学習を促した。 4. 校内オープンキャンパス・看護医療系ガイダンス・松蔭大説明会・外部大学や専門学校の入試説明会を実施する。 5. 小論文対策として、入試で小論文が必要な生徒に対し、個別指導を行い、小論文模試も実施する。 6. 指定校推薦決定者への指導として、進路に関する本を読んで、レポートを作成・提出させる。指定校進学に関して、必要な生徒に対して冬休みの自学自習補習を実施。 7. 進路決定後も学ぶ姿勢を維持するための企画を立て実施した。(ブルーアースプロジェクト、図書館司書体験、レッツゴルフ、新書を読もう、映画鑑賞など)	A	・自習室やスタディカフェを利用する生徒も増加し、昨年同様教員に質問する生徒も多く見られた。 ・学年団がチームを組んで志望理由書・自己推薦書などの指導にあたり、手厚い指導が行えた点がよかった。 ・進路決定後の生徒の学習意欲を維持させるべく、一層の指導の必要性を感じる。
	総合・探求	主体的に考え判断し伝える力の養成	1. 文章の書き方のルールを知り、自分の考えを他者に伝える。 2. 様々な問題に対して、自分の考えをもち、意見文とする。	1. 1学期 多くの生徒が関わるであろう「志望理由書」を、高2に引き続きリライト（書き直し）し、添削を受けた。 同じく6月にはフリージャーナリスト・西谷文和氏による「戦争と平和」についての講演会を実施。 6月には戦争をテーマとした映画『あの日の声をさがして』を鑑賞した。 2. 2学期 「いのち」や「生き方」に焦点をあて、「出生前診断」をキーワードに、ダウン症の保護者の会を主催するチェリッシュ・上村さんの講演を企画。また、白血病と闘った同世代の女性の映像を使うなど「障害」「生きる意味」など、答えのない問いを考える時間を持った。 大きなテーマではあるが、これまでの総合・探求の時間を過ごし、どのような感想を持ったか、何を考えたかを全生徒がまとめ、冊子化し、共有することで最後のまとめとした。	A	・講演会など生徒は熱心に参加していた。実施後のまとめ、感想の共有をもう少しできればよかった。
	学年行事	校外学習 体育祭	・自然に触れ、友人との親交を深めるように促す。 ・最後の体育祭にふさわしく下級生の模範となれるような姿勢を示す。	・布引ハーブ園。卒業アルバム写真の撮影などを実施。 ・多数の生徒が参加する自主企画「ソーラン」を生徒自身の企画・運営。	A	・天候に恵まれ充実した時間となった。 ・自主企画による「ソーラン」はリーダーの献身的な取り組みにも支えられ、しっかりとしたパフォーマンスができた。

教務部

学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につけさせる。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、ICT アプリ活用等により、生徒の基礎学力の修得に力を入れた。	B	引き続き授業改善に努めると共に、授業についていけない生徒への学力指導について検討をすすめる。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	高1以上では、英語でグレードクラスを編成した。また、選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。中1から高1では、数学の能力・意欲が高い生徒対象に特進講座を設定した。また今年度から、高1LS 特進クラスには土④に必修講座を設定した。その他、長期休暇中や平日放課後にも講習を設定し、生徒の学力向上につとめた。 英検対策講座は水曜日、高校3年生対象 校内予備校は土曜日に、それぞれ希望者に対して実施した。	A	各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。 中学の2コース、高校の3コースを意識し、各ポリシーと目標進路を意識した適切な指導を行う。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回計画した。また、高1LSAA では、新たに校内実力判定試験を作成した。学習意欲の向上をはかるため、スタディサポートや英語検定・漢字検定などを実施した。 中学3年生には現時点での自分の学力を意識させるため、全国学力・学習状況調査や基礎学力判定試験を受験させた。	A	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、進路指導部とも連携しながら対応を考えていく必要がある。また、新しい指導要領に基づいた適切な評価が出来るよう、各教科での準備を促していく。 観点別は学期ごと算出する。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習・探究の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。また、主体的な学びについての研究を進めてもらうよう促した。 修学旅行・校外学習や留学プログラムなど、校外での様々な体験・事前学習等の機会を計画した。	B	生徒が主体的な学びをより実践できるように各学年で改善を加える。特に中3総合・高1高2言語探究については、週2コマ設定を活用し、深い学びとなるよう、外部組織とも連携しながらすすめる。対外発表も意識する。
	研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	全学年に iPad・surface が導入され、Microsoft365 Teams をすべての学年が使用している。 Teams や metamoji の活用も進んでおり、その他、学校が契約している Find! アクティブラーナーの使用を促した。 また、教員研修として ChatGPT の活用法に関する講演を Teams を利用して行った。	A	デジタルデバイスが教員並びに生徒にも浸透してきた。授業で PowerPoint などを使用することも当たり前になっており、教員のデジタルデバイスに対する苦手感も減少しているように感じている。ChatGPT の研修も予想以上に好評で、今後につながる良いものとなった。今後も、授業や業務の改善につながる取り組みを行っていきたい。
	国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	1 学期には、4 月にはセント・ピーターズ校から日本語を勉強しているグループが来校した。これと並行し、セント・ピーターズ校、信明高等学校・聖明女子中学校への夏の派遣に向けて事前学習を行い、言葉や歴史を勉強した。両校への派遣はコロナ後初となった。多数の生徒が参加し、成功のうちに終えることができた。 2 学期には、1 年留学・海外大進学の説明会を開いた。 3 学期には信明高等学校・聖明女子中学校が来校し、ホームステイや授業を通して親交を深めた。	A	1 学期には、夏休みのセント・ピーターズ校、信明高等学校・聖明女子中学校への派遣に向けて事前学習を行い、ニュージーランドと韓国の言語や歴史について理解を深めたい。3 学期には信明高等学校・聖明女子中学校が来校し、ホームステイ等を通して交流を持つ。 海外の留学プログラムを拡大する。

	芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	今年度は「その他」の舞台芸術がテーマの年となり、「青い鳥ティアティカルカンパニー」による『アーサー王伝説～エクスカリバー物語～』を神戸文化ホール中ホールにて開催した。躍動感ある舞台は大変好評であった。	A	2024 年度は古典芸能鑑賞として茂山狂言会による狂言鑑賞を神戸文化ホール中ホールにて開催する予定である。
	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	自主性向上・運動能力向上のため、学校行事として、春の遠足・秋の校外学習・奉仕活動の日・文化祭・体育祭・球技大会・中１DS山のキャンプ・中２DS国内英語研修（British Hills）・中２GS直島研修旅行・中３DS沖縄修学旅行・中３GSフィリピン研修・高１GLカナダ研修・高２東北修学旅行等を設定した。 各行事はコロナ以前の形態にほぼ戻し、一方でコロナ以降の対応を引き継いだ方がよい部分はそれを継承した。	B	行事がたくさんあり、それぞれの行事に生徒も教員もかなり力を入れている。ただし、年間の各種行事のバランスを検討することも引き続き必要である。

生徒部

学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	・担任、学年を中心に指導する。 必要に応じて、生徒部からも指導する。 （※特にスカート丈・補助カバン） ・頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」という指導を積極的に行う。 ・状況に応じて、服装検査を実施する。	B	各教員が日常的に指導を行っているが、学年と生徒部がしっかり連携し、生徒にきちんと規定を守らせるようにしていく。また、「目安箱」に要望が入れられたことを受け、「服装規定」の頭髪・髪留めに関して検討していく。
		登下校のマナー	・交通ルール及び公共のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行	・日常的に登下校指導の実施。 ・歩きスマホをしないなど具体的な内容の指導の徹底をする。 ・関係機関と連携しながら補導活動（バス列車補導も含む）を定期的の実施。 ・教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	一人ひとりが周囲に思いやりをもって行動できるように、見守り、必要な声かけをおこなっていく。
		ICT 端末についてのマナー	・校内のルール（指定された場所・時間以外出の利用禁止など）の遵守	・ルールの徹底。（※ICT デバイスの使用場所、著作権、SNS の利用の仕方など） ・各教員の積極的な指導・声かけを実施する。	B	全教員で一貫性のある指導を継続していく必要がある。
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	・移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	A	被害件数ゼロを次年度以降も続けていきたい。
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 特に、インターネット、SNS の利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年１回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。保護者の方にも聞いてもらう機会をつくる。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNS などの不適切な書込については、発見次第随時指導する（スクールガーディアンにも依頼）。	B	今年度も情報モラル講演会のみ行うことができた（中高合同）。 薬物乱用防止については、講演会や情報提供ができるようにする。
生徒部	美化指導	校内美化・清掃の推進	・トイレ・教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	・使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除をきちんと行う。 ・大掃除では、各クラスの役割分担を美化委員が考える。 ・行事のとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。	A	引き続き生徒によるトイレ掃除を行うことができた。行事では体育祭のみ、各クラスに呼びかけをし、運動場で使用した椅子の脚拭きをおこなった。次年度以降も可能な範囲で活動をおこなっていく。
		ゴミの減量化・分別の	・ゴミの減量化	・できるだけゴミを出さないよう呼びか	A	生徒たちで美化委員によるペットボトルの

		徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	ける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。 ・美化委員はリサイクル処理を行う。		リサイクル処理を行うことができた。
生		生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	・校内ではあいさつ運動を実施する。 ・マナーアップキャンペーンなど外部のボランティア活動にも積極的に参加する。 ・部/同好会活動も活発になるよう互いに協力する。	A	部活動紹介に加え、部活動紹介ツアーを実施した。新入生と部員それぞれに成果があった。次年度よりよい形で実施できるように検討する。
徒	生徒会指導	学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	・文化祭・体育祭運営をよりスムーズに行う。 ・体育祭の競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 ・文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 ・その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	行事ごとの反省会はうまく機能しており、有効である。 次年度生徒会への申し送りを確実に行いたい。
部		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	・評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ・ヒロシマ署名活動など、生徒主体で取り組める活動を全校に紹介し、協力を仰ぐ。 ・美化では委員会が率先して活動し、校内全体の美化に努める。 ・保健に関する啓発活動により意識向上と改善を図る。 ・生徒会関係冊子の充実に努める。	A	タブレット使用によるペーパーレス化・情報配信を継続して実践する。
生徒部	安全教育	防火管理体制の整備 自衛消防の努力	年３回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防災火意識を高める。	・予告して行う訓練と抜き打ちで行う訓練とを行い、どちらの場合でもきちんと避難できるようにする（地震発生想定訓練を含める）。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。 ・南海トラフ大地震を想定した、防災教育を開始する。	B	今年度は予告なしでの避難訓練を行うことができなかった。来年度以降もそうなるだろう。 次年度は、突発的有事発生時の心構えも含め、教職員および生徒の防災意識を高めるよう働きかける。
		校内危機対応意識の啓発 不審者への対応	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	・教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	B	Classi も有効に活用し、防犯意識を高めるよう働きかける。
		全校生徒（特に自転車通学者）への安全意識の啓発	全校生徒を対象に年１回の講習を行う。	・自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、外部講師または啓発 DVD を使用し、登下校時の交通安全意識を高める。	A	啓発動画の内容に、ヘルメットの重要性も含まれるよう配慮した。Classi も有効に活用しながら、交通安全に対する防災意識を高めるよう働きかける。
		応急処置の意識の啓発	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	・年一回、ＡＥＤを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	アフターコロナでも応急処置の場面では感染防止対策が必要であることを学び、感染防止対策をした上での応急処置の仕方を学ぶことができた。
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を正しく理解する。	・性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の６年間に年１回は性教育を実施する。中学１年・２年・３年生、高校２年生では性教育講演会・性教育プログラムを行う。中学２年生、高校１年・３年生では、保健の授業で学習する。また、総合学習や他教科とも連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。	A	今年度も各学年でテーマを設定し、性教育講演会・性教育プログラムをおこなうことができた。高校１年・３年生においても、授業と関連させて実施できる活動を検討したい。

宗教部

学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教	日常礼拝の実施	講話者当番	専任教員を対象として、五十音順に「お話」の当番を割り振り、さまざまな先生方に話していただく。	・ 4月に担当日を決めて事前連絡をして話していただいた。（都合が悪い場合は、変更した。） ・ 12月に写真部による文化祭・体育祭のスライドショーを行った。 ・ 3月にBlue Earth Projectの活動報告を行った。	A	教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々にもお話ししていただけるようにする。
		奏楽者当番	学校行事や式典の奏楽者を手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。	・ できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようにした。	A	奏楽者への事前確認を事前に入れるようにする。
		生徒の参加に関する指導等	定時から落ち着いて礼拝が始められるよう指導する。	・ 礼拝前に各自、聖歌等の準備をし、心を落ち着けて礼拝を始めることができるように指導した。	A	早めに講堂へ集合し、静かに礼拝を待つという体制を継続していく。
		日常礼拝の見直し	日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。	・ かつては毎朝おこなわれていた礼拝のメリット、デメリットを考え、よりよい礼拝の形と回数の検討を重ねた。	C	来年度、日常の学校生活の様子を見つつ、礼拝の回数を増やせるように検討を今後も続けていく。
	特別礼拝の実施	説教者の選定	それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。	・ それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていただいた。	A	幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。
		オルガニスト・聖歌隊手配	活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。	・ 参加が決まり次第、正式な依頼を行った。使う聖歌等についても早い時期に決めて連絡をした。	A	連絡を密にとって、これからも連携していく。
		式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文をチャプレンが作成・準備した。	・ 各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	余裕をもって作成していく。
		礼拝形式	様々な形式での礼拝を行っていく。	・ 日常礼拝・1学期宗教週間特別礼拝とも、中・高別での礼拝をおこなった。 ・ 2学期宗教週間・クリスマス礼拝は中高合同でおこなった。 ・ イースター礼拝は宮岡信行先生（大阪女学院中高 宗教主任）、1学期宗教週間は能勢岳史先生（日本基督教団千里ニュータウン教会牧師）、2学期宗教週間は成岡宏晃先生（プール学院中高チャプレン）、クリスマス礼拝は吉田雅人先生（日本聖公会前東北教区主教）にお話を依頼した。 ・ クリスマス特別礼拝はキャンドルサービスで行った。	A	礼拝で聖歌の歌唱を再開した。 次年度以降もどのような形式での礼拝をおこなうのがよいか検討を続けていく。
	その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	・ 朝の礼拝、ヌーンサービス、お誕生日 礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝 ・ 震災記念の祈りを行った。	B	これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していく。 新たな企画や改革も検討する。
		奏楽者依頼	その他礼拝や式典での奏楽をスムーズに行う	・ 学校行事や式典が決定次第、手配した。 ・ できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようにした。	B	連絡を確実にしていく。
	宗教部企画の諸行事の実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなるようなプログラムを企画立案し、生徒に提供する。	・ 1学期の宗教週間中は、放課後の企画「オルガンコンサート」を講堂で実施した。 ・ 2学期の宗教週間中は、レオノラチャペルでクリスマスグッズ作りを行った。また古本を回収し、「ありがとうブック」を通して「どうぶつ基金」に寄付をした。 ・ にじ作業所のパンの販売を実施した。 ・ 図書館との協賛でブックリサイクルを行った。 ・ 教会訪問は、日本聖公会 聖ヨハネ教会・日本基督教団 神戸東部教会の訪問を呼びかけた。 ・ 2学期の宗教週間には近隣の教会の	A	今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促す。 新たな企画についても立案していく。

				牧師を招いてクラス講話をレオノラチャペルで行った。 ・ 3月11日(月)の放課後に近隣の記念碑を見て回る「震災記念碑めぐり」を行った。		
領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
		オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	・ レッスン生補充のためのオーディションを1月に行い、3名の合格者を得た。 ・ レッスンは、放課後または昼休みに講堂及びレオノラチャペルで行った。 ・ レッスン生には礼拝の奏楽奉仕をしてもらった。	A	チャペルのオルガンの購入を具体的に考えていく。 オーディションをおこなう場合は、できるだけ早い時期に行うようにする。
	各奉仕活動の実施	・ にじ作業所の支援パン販売の実施 ・ 災害支援キャンプの開催	・ 施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるプログラムを考える ・ 苦しい状況にある人々を忘れない。	・ 新型ウィルスの影響で販売場所が制限されたにじ作業所（パン工場なないろ）を支援するため支援パン販売を企画し実施した。 ・ 「オープンスクール」「オープンハイスクール」でのチャリティ売店は実施できた。収益は「国境なき医師団」を通じてウクライナ国内と近隣諸国の人々の支援のために献げた。 ・ 春休みに能登半島地震被災地へのワーク・キャンプを検討したが、実施には至らなかった。	B	今後も行える活動を模索・検討していく。
	人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画・立案する。	・ 「ちゃんへん。」氏によるジャグリングショー&講演会を企画した。事前に礼拝において人権に関するお話をした。鑑賞後はClassiにてアンケートを行い、感想を書いてもらった。	A	様々なお話しや教材によって幅広く学習する機会を与えていく。 さまざまな啓発活動を行う。
		啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	・ 人権講演会にあわせて講演会の予告を『チャペルニュース』に掲載した。 ・ 生徒の感想を機関誌『青谷』に載せ、紹介した。	A	より分かりやすい文章を考えていく。
		教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	・ 「ちゃんへん。」の講演会を企画した。	A	お話しや取り組みを通して幅広い理解が出来るように考えていく。
	宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教に対する興味や関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりに共感することができるようなプログラムを企画・立案する。	・ 8月5日～6日に神戸教区主催の広島平和礼拝への参加、広島女学院主催の署名運動に参加した。またそのための事前学習会をミカエル教会で実施した。 ・ 2学期に核廃絶の署名活動を支援するため、生徒会を通じて全校生徒に署名への協力を呼び掛けたり、クリスマスの集いで署名活動を行った。	A	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動を積極的に行い、生徒の参加を促していく。
	啓発文書の発行	『青谷』の発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	・ 日常礼拝での講話者・今年度末での退職者をはじめ、さまざまな方々に広く原稿依頼を行った。 ・ 生徒の感想なども取り入れた。	A	宗教部の活動を広く教職員で共有できるような内容を考える。
		『チャペルニュース』の発行	定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。	・ 活動中の写真などもおりまぜて、合計5回、発行した。 ・ Classiで全校保護者・生徒に配信した。	A	活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていく。
		「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	・ 年間聖句および5月から月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計8回、各教室と図書館前、廊下、講師室、事務室前、バス道掲示板等に掲示した。 ・ 聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。 ・ Classiで全校保護者に配信した。	A	今後も適切な聖句を早めに選び、学内外に紹介していく。
	関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えてい	・ NCC（日本キリスト教協議会）を通じてトルコ・シリア地震被災者緊急支援のために捧げた。	A	必要とされる場所に献金、人的支援ができるようにリサーチしていく。

			く。	・犬猫殺処分ゼロを目指す「どうぶつ基金」に捧げた。 ・「国境なき医師団」を通じてガザ緊急支援のために献げた。		
--	--	--	----	---	--	--

総務部

学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	総務	緊急連絡システム（ミマホルメ）	適切な運用・管理・発信をする。 ※2023 年度よりミマホルメ使用	各学期初めにテストメールを配信した。 必要な場合、メールによる緊急連絡を実施した。内容により、未到達者に対しては、電話で連絡した。	B	未開封者に対して、対処マニュアルを配布し、開封確認や登録を依頼した。
		式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は施設管理職員にあらかじめ依頼内容を報告し、作業後に点検を行った。	A	設営作業がスムーズにいくように式典前の施設利用に気を配る。
		奉仕活動の日	学年やクラス単位で独自の社会貢献を考え取り組む。	「奉仕活動の日」として、近隣の清掃活動やSDGs 関連の取り組みなど、学年ごとに計画した活動を実施した。	B	実施3 年目となる学校行事であり、地域社会を大切にして貢献できるような活動を押し進めていく。
	校内施設・備品	各教室の管理	教室の机・椅子の数等を把握する。 余りの机・椅子の保管場所を確保する。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。 余りの机・椅子の保管場所を確保して美化・安全面へ配慮した。	A	年度末に不具合のある机・椅子の入れ替えをした。
		空き教室の有効利用	放課後に校内で行われている活動（部活動・補習など）を掌握する。 長期休暇中の教室利用を調整する。 教室の有効利用を進める。	通常利用一覧表を掲示し、月別の放課後教室利用を共有のエクセルシートに使用者が入力した。 利用頻度が高い場所については、校内イントラネットを活用して予約が重ならないようにした。長期休暇中については、事前に教室使用希望調査を行い、調整した。	A	通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。 長期にわたり使用頻度が低くなっている教室の有効利用として、自習室を増設し、余りの机・椅子の保管場所を確保した。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務室、施設管理職員、守衛の4 部署に翌月の施設利用表を配布・配信し、周知をはかった。	A	校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に各部署の利用予定を掌握する。
		不良箇所の補修	事務部・施設管理係との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼した。	A	定期的に校内の点検・見回りをする。 各学年と連携し、早めに状況を把握する。 特に、エアコンについては、経年使用による不調が頻繁に起こり、その都度、必要な対応を速やかに行った。
		校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。	生徒の清掃に関わる品物を購入、必要に応じて分配した。 ※合宿時の寝具をレンタルに変えた。	A	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、コストダウンに心がける。
		事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	A	紙類の無駄が出ないように工夫する。 I C Tデバイスの活用により印刷を削減し、紙類の使用を減らす。 その他、ゴミの削減に努める。
	広報（ホームページ・学校報・ハンドブック）	ホームページ（学校の広報）	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係と連携し、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。 SNS を活用した。 緊急・災害時情報入力フォームを改良した。 Blue Earth Project、図書館、同窓会（千と勢会）との情報共有を継続して進めた。 北門掲示板・校長室前掲示板にニュースレターを掲示した。	A	学校活動の活発さをより効果的に発信する対策・方法を工夫していく。 Blue Earth Project、同窓会（千と勢会）の学校 HP を更新した。 学校 HP の TOP ページを改良した。 これまでの「HAND BOOK」「進路の手引き」に替わるページを作成した。（2024 年度より運用開始）
		学校報（1 年間の学校の記録）	記録として分かりやすい内容にする。	1 年間の正確な記録を集め、1 学期末の発行に努めた。	A	写真等を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。
		ハンドブック（校内のルール・約束事の周知）	現状に合うように加筆・訂正する。	各部署に原稿の作成（訂正）を依頼し、3 月中旬に納入できるよう努めた。→デジタル化を検討し、2024 年度運用に向けて準備した。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。（2024 年度よりデジタル化に伴いホームページへ移行）

	資料	資料の整理・保存	資料を計画的に保存する。 主な発行物の残部を保管する。	資料の整理を継続して行った。	B	古い資料・貴重な資料の整理を進め、体系的な整理に努める。 今後の資料の整理・保存についても検討する。
	記録	写真などのデータの一元化	学年で撮影した写真のデータを集約する。	データが有効に活用できるよう速やかにフォルダに共有した。 写真データ収集を各学年・写真部に依頼した。	A	各行事の記録が残るように撮影に努めた。

進路指導部

学校自己評価　（A　よくできた　B　できた　C　あまりできなかった　D　できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導部	進	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	卒業生・外部講師による講話や高3生徒による進路ライブなど、生徒に考えさせる機会を作る。	A	卒業生も積極的に活用できるよう環境整備ができてきた。次年度以降も卒業生を積極的に活用しさらなる充実をはかる。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図る。	C	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。
			自習室を積極的に活用できる様にする。また質問等しやすい環境の整備をする。	各クラスで自習室の利用の仕方ならびに積極的に活用するよう生徒へ周知する。S-Caféについても積極的に活用できるよう生徒への周知をする。質問スペースについても継続して開設する。	B	S-Caféは開設でき、少しずつではあるが活用できてきた。自習室の利用も増え始めてはいるがさらなる利用促進のため定期的にアナウンスしていく。
	路	進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1言語探究の時間をはじめ、進路学習を系統的に行う。中3や高2の探究の時間も生かして、継続的な進路学習を行う。オンラインでのガイダンス等も活用する。	B	効果的な進路研究の方法について検討する。
			実力考査の定期的に実施し、進学指導に生かす。	実力考査および、高校生のための学びの基礎診断（スタディーサポート）を実施する。	B	次年度以降も実力考査・校内実力判定試験を有効に活用する。
			実力考査の計画的な実施。	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝える。	A	採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。高校1年生では実施後の資料を有効に生かしていくため資料の見方講座を実施した。引き続き実施していく。
	導	キャリア教育の充実	大学入試制度改革への対応。	情報収集に努め、生徒保護者集会などを用いて説明する。教員への情報提供も行う。	B	新課程入試に向けて引き続き情報収集と情報提供に努める。
			受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	Blue Earth Project チームYではエコイベントを実施する。 探求学習では環境をテーマにポスター制作をする。	B	エコイベントによる成果発表はコロナの影響を脱して継続。ただ、探求学習では過去2年間のポスター制作を改めBlue Earth Project に直接つながる内容とする。
			社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	高3のBlue Earth Project では校外でのイベント活動と店舗アタックをコロナ以前と同じ規模で行う。	A	高3 2か月半での4回のイベントは過多なので2回程度に減らすが、引き続きプロジェクト学習の充実を図る。

入試広報室

学校自己評価　（A　よくできた　B　できた　C　あまりできなかった　D　できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
----	----	------	------	------	----	---------

入 試 広 報 室	生徒 募集	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	Ⅰ学期、いちばん大切な入試行事。できるだけ多くの生徒、教員をみていただくようにする。	B	他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。 食堂の利用も検討する。
		中学校説明会	主に小学６年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	９～ⅠⅠ月に３回実施し、本校の教育内容を的確に説明した。	B	２回目、担任教員・保護者の方・卒業生の話。 適切な時期を検討する。
		G S ・ G L 説明会	松蔭にG S ・ G L があること。その教育内容を知っていただく。	中学受験で自己推薦G S 入試を実施すること。英語Ⅰ科でも受験可能であることを説明。	B	授業見学会の参加、小学生にはE L S 講座への参加につなげたい。
		授業見学会	授業の様子を見ていただく。	松蔭独自の授業をご見学いただくようにした。中学と高校にわけて実施。	B	H P などで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生・中学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を体験してもらう。	小学生・中学生のみなさん楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	B	演劇部を中心に、多くの生徒の活動を紹介した。 ご参加人数が減少。今後、多くの方にご参加いただけるよう検討。
		外部会場での説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	Ⅰ0月・ⅠⅠ月に宝塚・明石・西神南・阪神西宮・三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	日曜日・祝日に実施したが、お申し込みの人数が減少。実施会場を検討する。
		個別相談会	入試直前のⅠ2月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置。 ご希望の方には校内をご案内。	B	この時期には併願校をご検討する方がいらっしゃるのでつづけていきたい。
		学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対する的確な説明を心がけた。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」が見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減少。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	３月に「神戸東地区４校合同説明会（神戸海星・甲南女子・親和・松蔭）」	B	他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。
		E L S 講座	２ストリーム制の設置に伴い、校内で小学生対象の英語講座を設置した。	２つのレベルを設定し、幅広くご参加いただけるようにした。	A	講座参加児童の入学も増えてきた。より参加者数を増やし受験に結びつけたい。
	関連 事項	個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	個別見学の申し込みをしやすくするよう、H P などで呼びかける。
		プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもっていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	多くの方に受験していただけるよう対策を考えたい。
		課題図書プレゼン入試説明会・課題図書プレゼン練習会	課題図書プレゼン入試の説明会を９月・Ⅰ2月に２回、本番へ向けての練習会をⅠ2月に実施。	入試の内容をわかりやすく説明。入試へ向けてどのような準備をすればいいか、できるだけ具体的に説明。	A	課題図書プレゼン入試を実施していることを多くの方に知っていただく。
		英語面接練習会	英語入試(GS)での受験をお考えの方に、より受験の意欲を持っていたけるようにする。	本番と同じ形式で個別に面接を実施、同時にアドバイスをする。	A	２回に分けて実施
		オープンハイスクール	中学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	オープンスクールと別日程で実施した。	B	参加数が減少。より多くの中学生に参加してもらえるよう、広報活動を活発に行う。
		高校説明会	高校入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	３コース制の制度を詳しく説明した。W E B 出願を開始したので、その説明をした。	B	授業見学など在校生の様子をより見ていただけるようにした。参加数が減少。広報の方法を検討。
		学校案内冊子	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	松蔭のことをあまりご存知ない方が、学校案内をみて、大体の様子がわかるようにする。
		受験雑誌記事	松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。
		広告・看板	松蔭の紹介と入試関連日程の紹介。	阪神電車、山陽電車、地下鉄に広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
		ノベルティーグッズ	小学生・中学生が魅力を感じるグッズを提供する。	外部説明会でもペンをわたした。	B	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生・中学生に喜んでもらえるものを検討する。

		塾訪問	塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
		中学校訪問	松蔭が高校入試を実施していること、3コース制を実施することを多くの先生方に知っていただく。	チラシ、ガイドを作成。 女子生徒への配布を依頼。 高校入試でWEB出願を開始、中学校の先生方へ、その説明を行った。	B	3コース制だけでなく、併願受験も実施していることを知っていただく。
		公立中学校の先生方対象、私立高校説明会	松蔭が高校入試を実施していること、3コース制を実施していること、併願受験を実施していること、を多くの先生方に知っていただく。	10月に神戸市の説明会に参加した。	B	加印地区の説明会に参加できなくなった。 その後の中学校訪問につなげる。
		塾対象説明会	教育内容を説明し、塾の先生方を通じて、通塾生、保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。 ストリーム制、高校入試について説明。	B	実施時期を9月後半に変更したことで、ご参加の人数が増えた。
		模擬試験会場	芦研模試6月、10月の2回。同時進行で説明会を実施。	男子の受験も可能。	B	プレテスト同様、入試本番に近い形で受験できるようにする。

読書運動委員会・図書館

学校自己評価　（A　よくできた　B　できた　C　あまりできなかった　D　できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第54回） 読書感想文作成	・読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2023年度は「世界」。 ・テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 ・教員による推薦図書リスト、紹介文をファイルにしてClassiで配信。 ・生徒たちは、ファイルを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 ・優秀作を図書館に展示。 ・図書館展示終了後、優秀作をポプラ社のPOPコンクールへ応募。 ・国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 ・感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を12月アセンブリーで表彰。 各学年の最優秀作品は、第51回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：入選：2作、佳作1作。高校：特選2作、佳作1作。 特選の高校3年生と高校2年生の作品は、第69回兵庫県コンクール応募作にも選ばれた。 ・第54回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。	A	今年度のテーマは「世界」。 委員の教員が会議で話し合い、「コロナ禍からの活動回復が進み、徐々に海外との交流も増加してきている。これまでにはできなかった様々なことに挑戦し、生活を革新させることも可能になってきた。しかし改めて世界について考えてみた時、私たちはどれほど個々の国々を取り巻く情勢や歴史、文化等を理解できているか。これを機に、そういったことに少しでも関心を持ってもらえればと思う。 また、「世界」は「～の世界」と言ったように「特定の領域」を表す場合もある。自分の興味がある特定の領域について、今一度読書を通じて深く知る。さらには自分の「外」と認識していたこれまで深く関わってこなかったような分野について知り、自らの「世界」と関連付け比較し、刺激を得ることによって、より豊かに興味の幅を広げていくきっかけになってほしい。」などという理由でこのテーマに決定した。様々な形で「世界」を感じ取ることのできる推薦図書リストが完成し、全学年共通の「POP作成」の課題に取り組み、今年度も各学年段階に応じた個性豊かな作品が多く提出され、高2生が「コンテスト事務局賞」に入賞し、ポプラ社のHPに作品が掲載された。 しかし日頃から読書に興味を持ち、図書館を活用するなど、自発的に活字に親しもうとすることのない生徒も多い。 様々な機会に読書に対する興味を持てるように、今後も継続して教職員の協力を求めたい。具体的には、 ・日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 ・個人の嗜好に合わせた情報の発信。 ・読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。

						・読書運動冊子の活用法の検討。
			ゴールドカード・プラチナカードの表彰 その他	・この１年間に 50 冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを授与、2 月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー） 高校でさらに 50 冊以上読んだ生徒にプラチナカードといつても 10 冊借りられる特典と図書館ロゴ入りクリアファイル授与 中学・高校卒業時に今まで貸出した資料リストを配布。	B	今年度プラチナカード授与者は 1 名。 ゴールドカード授与者は中学 2 名。 うち 1 名はサタデーライブラリー出身。たくさん本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取組みは、今後も継続。
		生徒が図書館を有効に利用できるようにする。 生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。	探究等の調べ学習の際の利用。 授業での利用。	・高 3 の論文作成の際に情報検索のためのナビゲーション指導（有志）、高 1 ・高 2 の探究（講演）の際に図書館作成の検索法レジメを配布 ・授業での利用 J 2 AB 国語探究&H I G「言語と文化理解」。 自習も本に親しむ機会になるので歓迎。	B	各学年・各教科とのさらなる密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。教員側の意識をさらに高めることが課題。多くの教員が図書館に頻繁に来て、図書を使った授業の工夫も行うよう促したい。
			図書館利用のルールを理解、遵守。	・新入生、転入生に対して、オリエンテーションを随時実施。 ・日常的な利用に際して、きめ細かい指導を実施	A	時間不足なので自習時間等別の時間を見て補う。
			広報等	図書館情報誌「はと時計」「噴水」を発行。本の紹介をはじめ、各種イベントの案内。 classi に新着図書一覧と、「はと時計」「噴水」を配信（2 年目）。 ・絵本ボランティア、読書みくじ等の各種イベントを実施。 ・高 3 三学期有志参加プログラムの一環として司書体験。 ・チャリティブックバザーの実施。今年は classi で呼びかけて保護者の参加も。売上げ全額をチャリティに。 ・図書館の公式 X（旧 twitter、facebook instagram のアカウントを運営（3 年目）。	A	「はと時計」の益々の充実・周知を目指す。生徒が積極的に楽しく読書活動ができる機会を拡大したい。 司書体験 参加は 9 名。
	選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	係による定期的な選書を実施・生徒からのリクエスト本について随時審議。	A	ジュンク堂への見計らい選書が実施できた。